

図書館システム についての アンケート結果と考察

2018年 9月 15日

Vytautas Magnus University, Kaunas Lithuania

Nobutake KAMIYA (University of Zürich)

Arjan van der Werf (University of Leuven)

Naomi Yabe Magnussen (University of Oslo)

問題点

- 欧州の日本学支援を行っている図書館では様々な図書館システムやOPAC, Discovery Systemが使われていてシステムに関する問題を共有するのは難しい
- 書誌データが均一でないため、コピーカタロギングや検索の際、問題が見られる
- インデックス作成、検索の際、日本の文字の処理が理想的ではない。また、図書館によって問題点が異なる

アンケートの目的

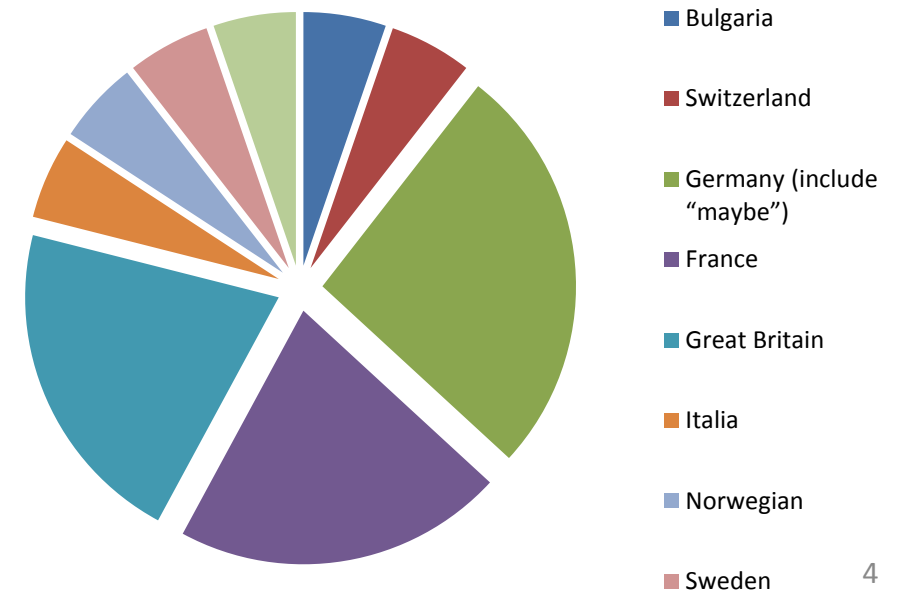
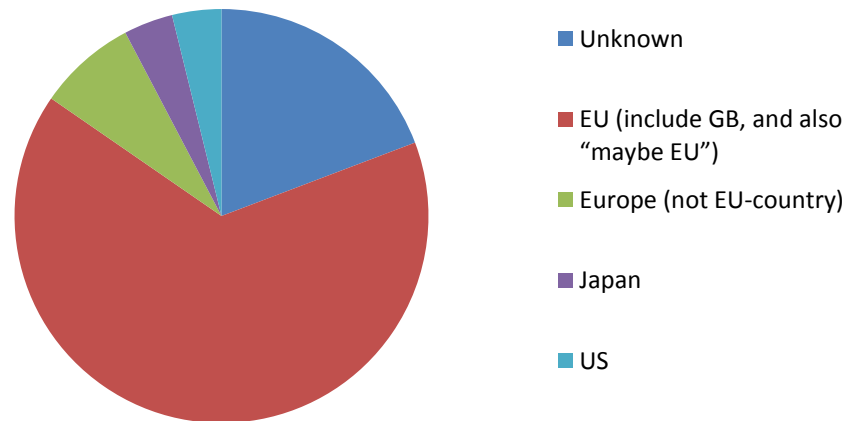
- 図書館システムとディスカバリーシステムの現状を把握し、同一システムを使っている欧州の図書館が相互理解できるよう方法を模索する
- 可能であればシステムごとの問題点を把握する
- 各館でつくられる書誌データがどの程度均一でないのか調べるための足がかりを作る
- 書誌データ登録の問題点を具体的に知る
- アンケートは2018年春にEAJRSのメーリングリストで配信された

最終的に日本語資料のアクセシビリティ向上をめざす！

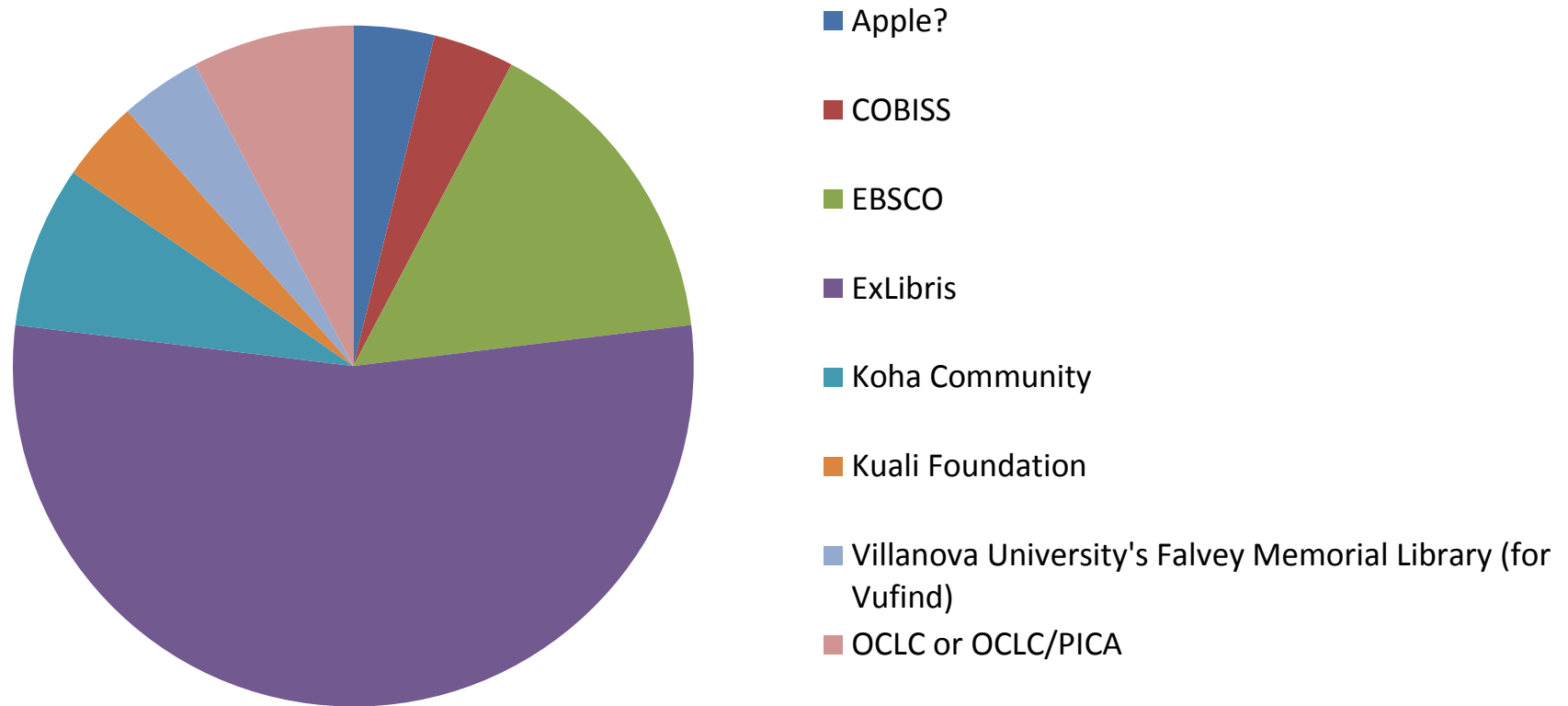
アンケートの参加館

- アンケートは、EAJRSに登録されているメールアドレスを利用して配信されたため、一部北米や日本からの回答もあったが、主な回答は欧州から寄せられている。
- 回答があった26館の内、24館が欧州。欧州にはEAJRSに参加していない日本学支援館もこの他に沢山ある。(特に南欧地区)

number of participants

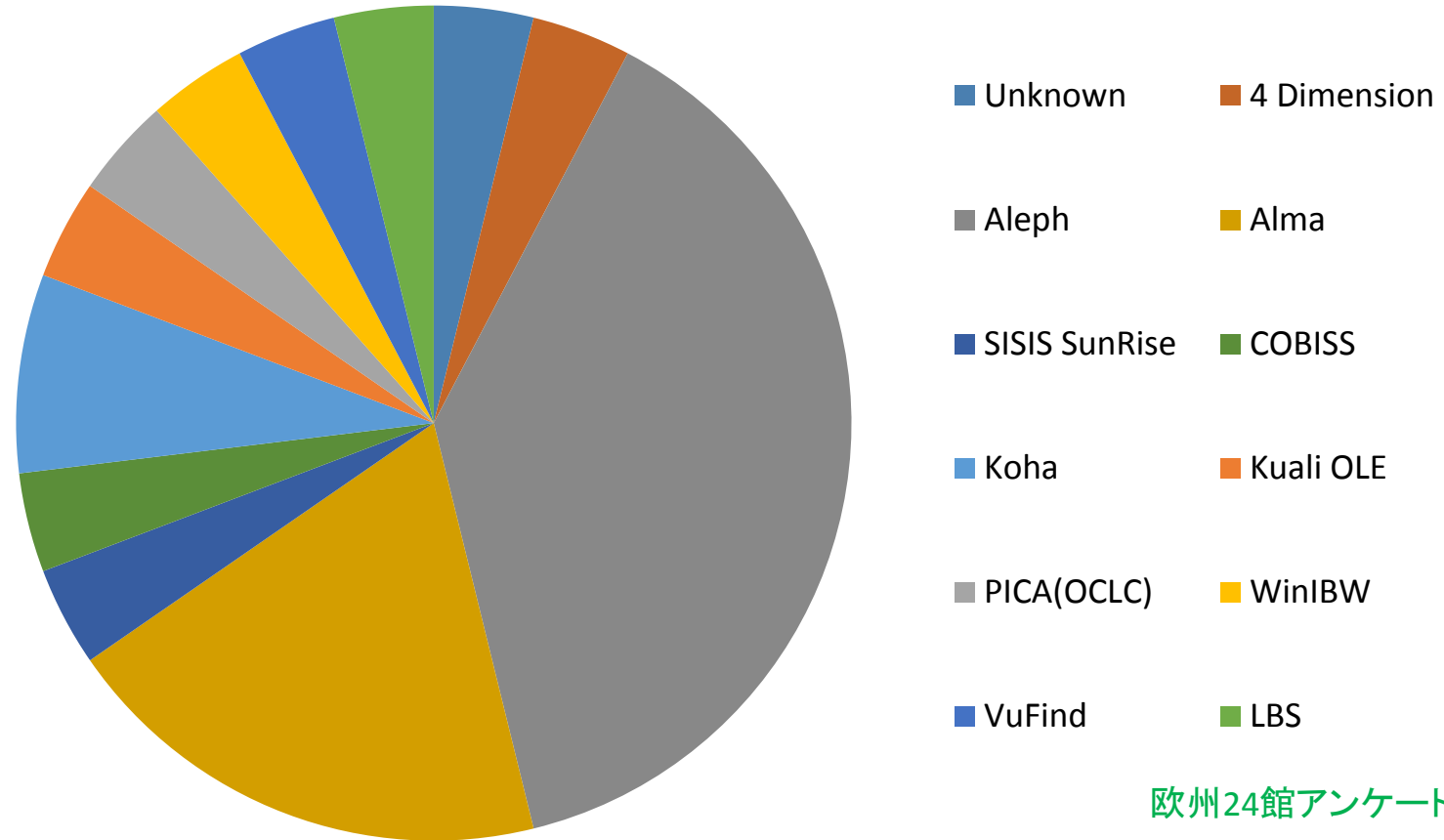


図書館管理システム・ディスカバリサービスなどの提供者 (Vendor/Provider)



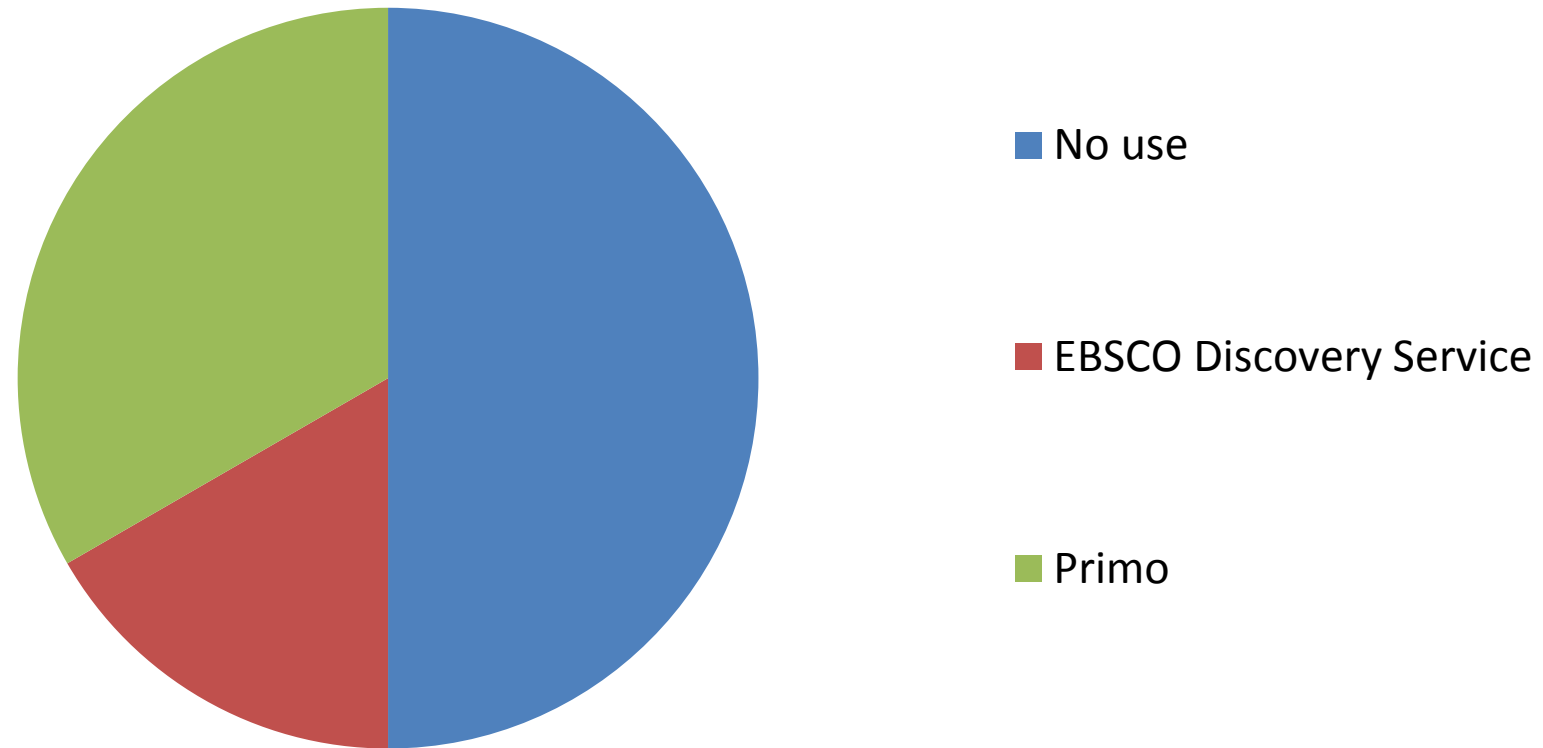
欧州24館アンケート結果

図書館管理システムの使用状況 (Library Management System)



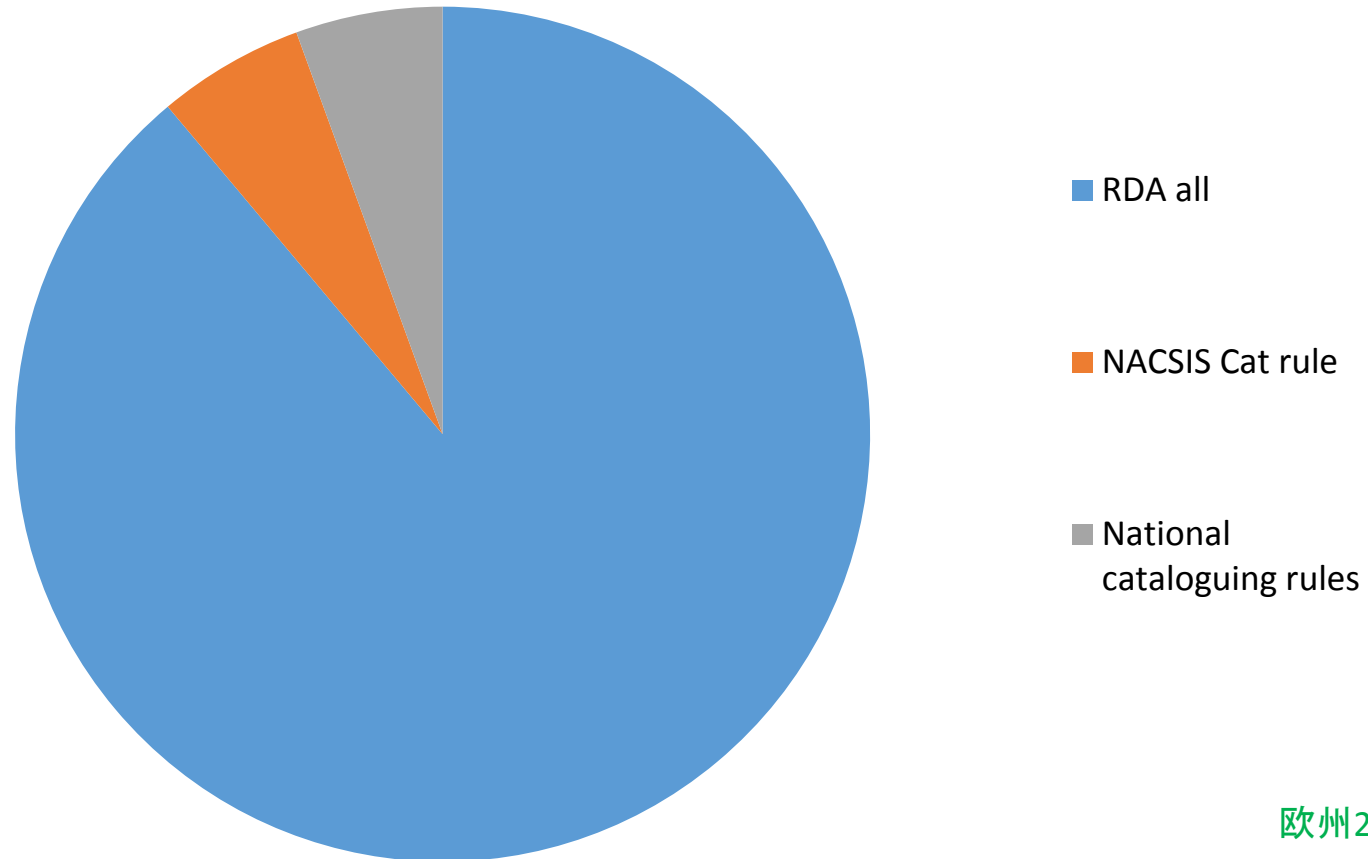
欧州24館アンケート結果

ディスカバリ(Discovery)の使用状況 (OPACは除く)



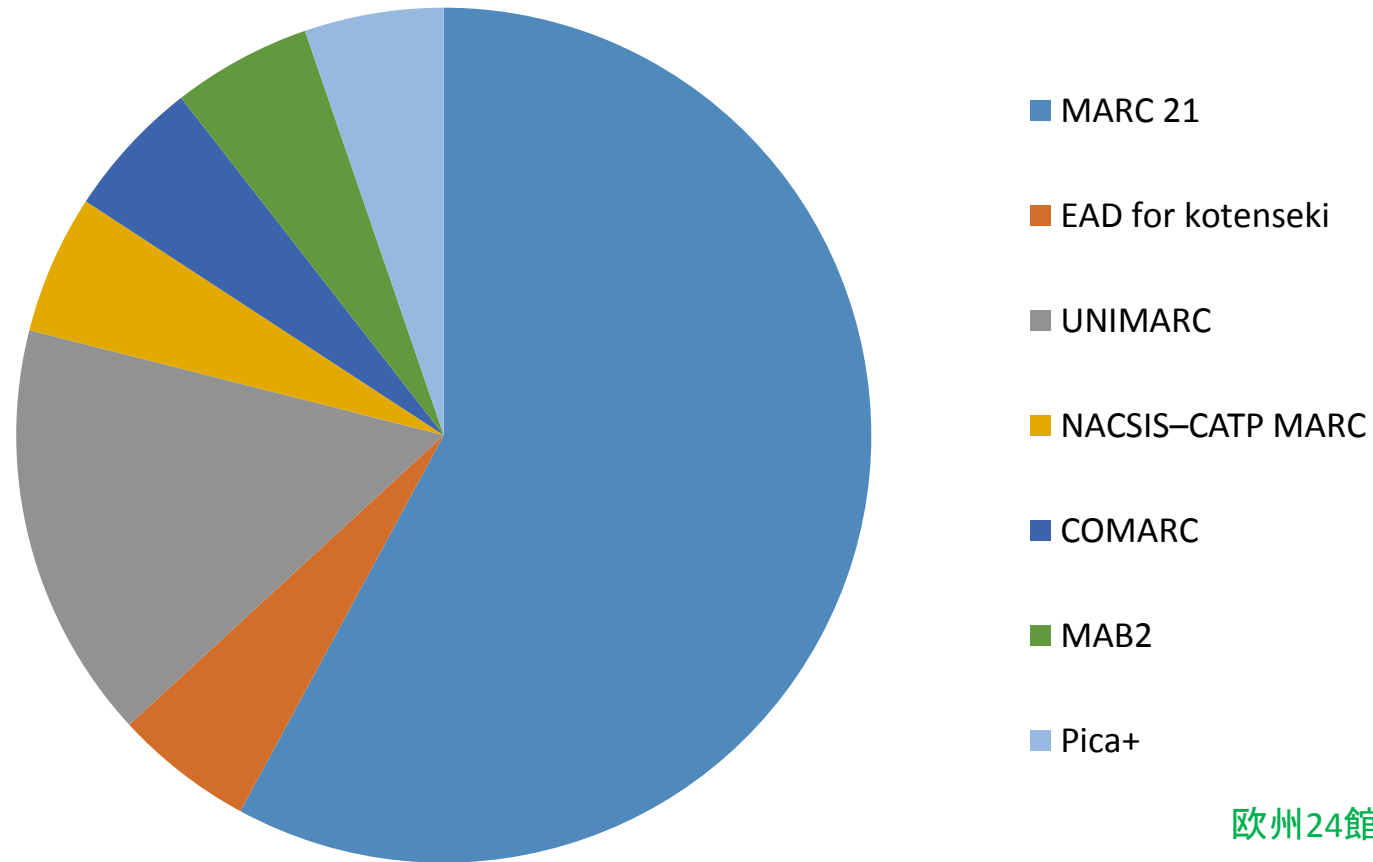
欧州24館アンケート結果

カタログ規則の使用現状



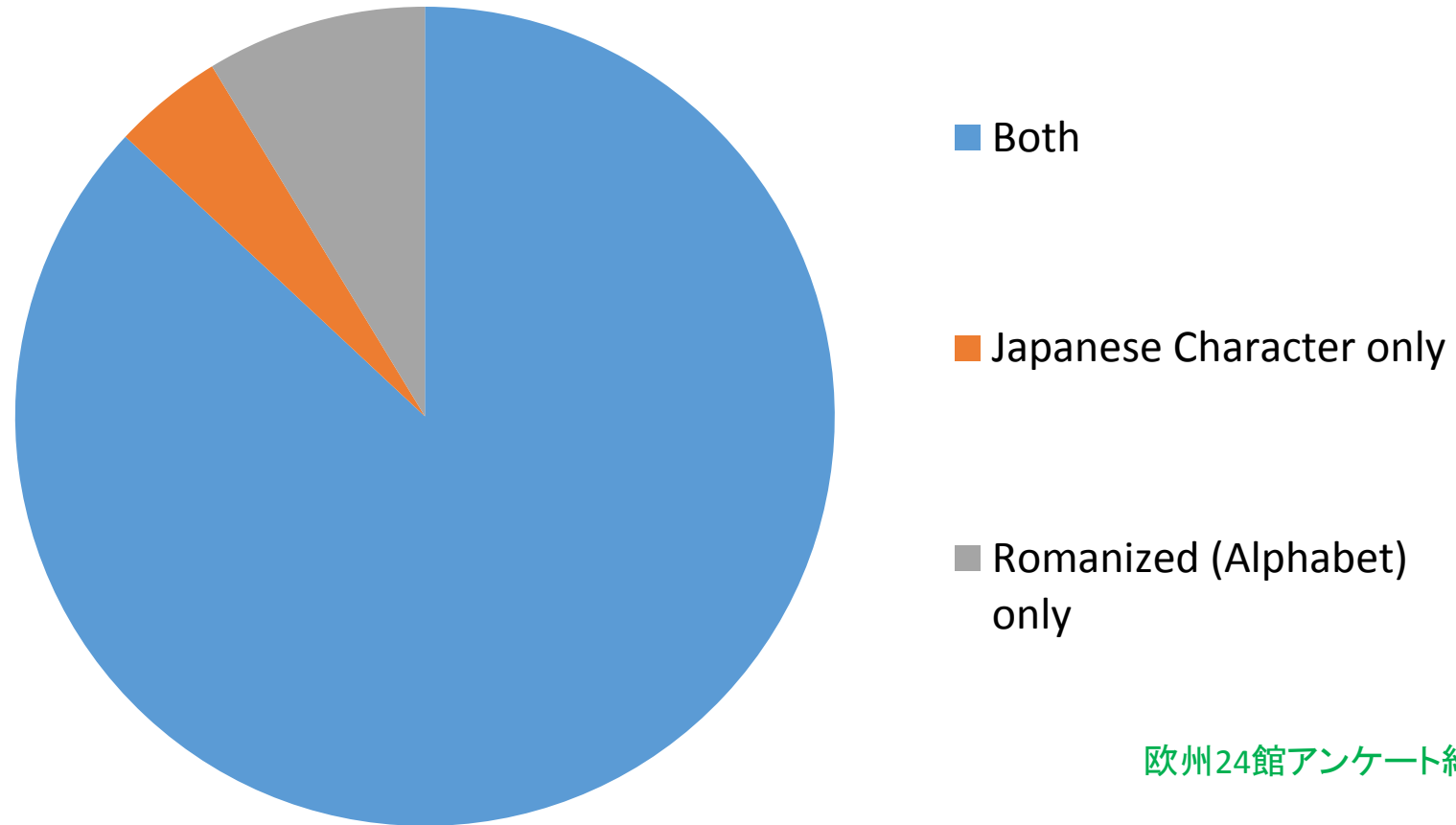
欧州24館アンケート結果

書誌データの規格の使用状況 (Formats for bibliographical data Formats)



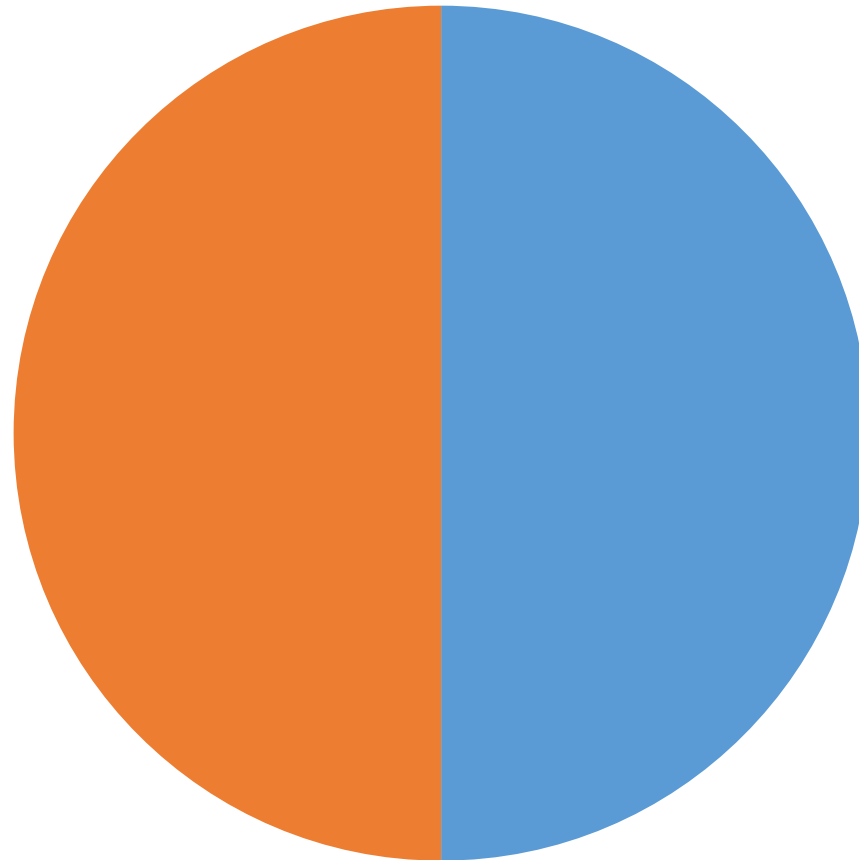
欧州24館アンケート結果

カタログで使用されている言語



欧州24館アンケート結果

日本語ローマ字書き書誌の 分かち書きの基準



■ ALA-LC

■ NACSIS-CAT rule (目録情報の基準(4版))

分かち書きでNACSIS-CATを使っているのは、ドイツ語圏では日本語書籍の書誌はNIIのものを利用しているため比率が多くなっている。ドイツ語圏外ではヘボン式が標準。

欧州24館アンケート結果

将来に向けて必要とされること

- 図書館管理システム・ディスカバリーにおいてはローカルレベルで解決できる問題もあるので、知識共有があるとよい
- 使用されている表記は、日本語のみ、日本語とローマ字併用、ローマ字のみのところがある。ローマ字も2種の基準が使われている。
- システムごとにちがった問題があるため、該当図書館で問題共有する必要がある
- システム・ベンダーサイドで改変が必要なときは協力する
- 各国・各図書館の要請があるので限界はあるが、可能な限り書誌データを均一にとる??

関連する点として...

- この問題は日本語のみの問題ではなく、非欧州言語に共通する。
- 欧州では人件費節約のためアジア言語の出来ない図書館員がアジア言語図書管理をする傾向が増えつつある。利用者の便宜を考える時、検索が正確に反映される質の良い書誌情報が今後更に重要になる。

**アンケートに参加していた皆様
ありがとうございました！**

**欧州だけでなく、日本・北米の方の答えも
参考になりました！**